

製品名: CD13 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86972**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:2000,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:110 kDa; Observed MW:160 kDa

抗原情報

遺伝子名	CD13
別名	APN; CD13; LAP1; P150; PEPN; GP150
遺伝子 ID	290
SwissProt ID	P15144
免疫原	ヒト CD13 の合成ペプチド

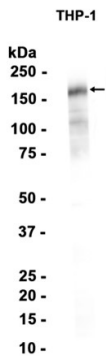
背景

アミノペプチダーゼ N は、小腸および腎臓の微絨毛膜、ならびにその他の細胞膜に局在する。小腸において、アミノペプチダーゼ N

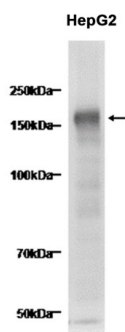
は、胃および膵臓のプロテアーゼによるタンパク質の加水分解で生成されたペプチドの最終的な消化に関与する。近位尿細管上皮細胞およびその他の細胞種におけるその機能はあまり明らかではない。大きな細胞外カルボキシ末端ドメインには、垂鉛結合メタロプロテアーゼスーパーファミリーのメンバーに特徴的なペンタペプチドコンセンサス配列が含まれる。このクラスの既知酵素との配列比較により、CD13 とアミノペプチダーゼ N は同一であることが示された。後者の酵素は、小腸および腎臓の尿細管上皮細胞、マクロファージ、顆粒球、および中枢神経系のシナプス膜など、多様な細胞種による調節ペプチドの代謝に関与していると考えられている。ヒトアミノペプチダーゼ N は、上気道感染症の重要な原因となるヒトコロナウイルスの一種の受容体です。この遺伝子の欠陥は、様々な種類の白血病やリンパ腫の原因となると考えられています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

画像データ



db4591 を 1:1000 で使用して THP-1 細胞抽出物をウェスタン ブロット分析しました。



AMRe86972 を 1:1000 で使用して HepG2 細胞抽出物をウェスタン ブロット分析しました。